

情報処理検定

情報処理検定は、コンピュータのハードウェアやソフトウェアに関する知識、ビジネスにおける実務的表計算ソフトウェアの活用能力やデータベースソフトウェアの活用能力、プログラミングに関する技能を認定する民間資格です。

全国工業高等学校長協会主催の[情報技術検定](#)と比べて、簿記や経理、商業実務の立場から見たコンピュータの利用に重点が置かれています。

第3級から第1級までの3段階に分けられています。

試験内容

第2級と第1級は、**ビジネス情報部門とプログラミング部門**に分かれていて、両部門の第1級に合格すれば2冠として認められます。

■ 第3級

- ハードウェアやソフトウェアに関する知識（パソコンの操作などについて）
- 通信ネットワークに関する知識（インターネットやプロバイダなどについて）
- 情報モラルとセキュリティに関する知識（ネチケットなどについて）
- 表計算ソフトウェアに関する知識（表の作成や関数の利用などについて）
- データベースソフトウェアに関する知識（DBMSなどについて）

■ 第2級 — 共通範囲

- ハードウェアやソフトウェアに関する知識（ディレクトリなどについて）
- 通信ネットワークに関する知識（ネットワークの構成などについて）
- 情報モラルとセキュリティに関する知識（権利の保護と管理などについて）

■ 第2級 — ビジネス情報部門

- 表計算ソフトウェアの活用（関数の利用やグラフの作成について）
- データベースソフトウェアの活用（リレーショナル型などについて）

■ 第2級 — プログラミング部門

- 関連知識（流れ図やコーディング、コンパイルなどについて）
- アルゴリズム（演算や数値の大小比較、繰り返し処理などについて）
- プログラム言語（COBOLやイベント駆動型BASICについて）

■ 第1級 — 共通範囲

- ハードウェアやソフトウェアに関する知識（システムの開発などについて）
- 通信ネットワークに関する知識（ネットワークの構成などについて）
- 情報モラルとセキュリティに関する知識（秘密鍵や公開鍵などについて）

■ 第1級 — ビジネス情報部門

- 関連知識（ピアツーピアやクライアントサーバシステムなどについて）
- 表計算ソフトウェアの活用（応用操作や分析などについて）
- データベースソフトウェアに関する知識（データベースの設計などについて）

■ 第1級 — プログラミング部門

- 関連知識（基数変換や論理回路、磁気ディスク装置などについて）
- アルゴリズム（ページコントロールや順次編成ファイルの処理などについて）
- プログラム言語（COBOLやイベント駆動型BASICについて）

試験日程

9月、1月

検定料（テキスト代）

3級は1,000円、2級は1,200円、1級は1,500円

平成27年度の資格取得状況
